

研究主題

「一小的学び」の実現を目指す地域社会に開かれた教育課程の創造
～改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメント研究を通して～

1 研究の構想

主題設定の理由

学力に係る諸課題の解決のため、実態を踏まえた教育活動の質の向上を目指して、「子供たちの学び」を支える、教育課程の仕組みの改善・充実の好循環を生み出す「一小的学び」を研究し、その実現を図るために設定した。

研究の仮説

児童に身に付けさせたい資質・能力を育成するため、課題解決や改善の方策等を家庭・地域と共有しながら取り組むとともに、国語科を軸として位置付けた教科等横断的な取組の在り方を明確にして実践していくことで、改善と充実の好循環を生み出し、「一小的学び」を実現することができるであろう。

研究の視点

① 課題解決・改善に向けての組織体制づくりと実践

② 国語科を軸とした教科等横断的な取組の検討と授業づくり

③ 学力充実に係る教育活動の方策の検討と実践

2 研究の組織

授業実践部会

・低学年部 ・中学年部 ・高学年部

調査研究・実践検証部会

・授業改善検証班 ・諸調査分析検証班 ・研究成果検証班

諸活動実践部会

・校内各教育活動班 ・育友会活動班 ・学校運営協議会班

3 研究の概要

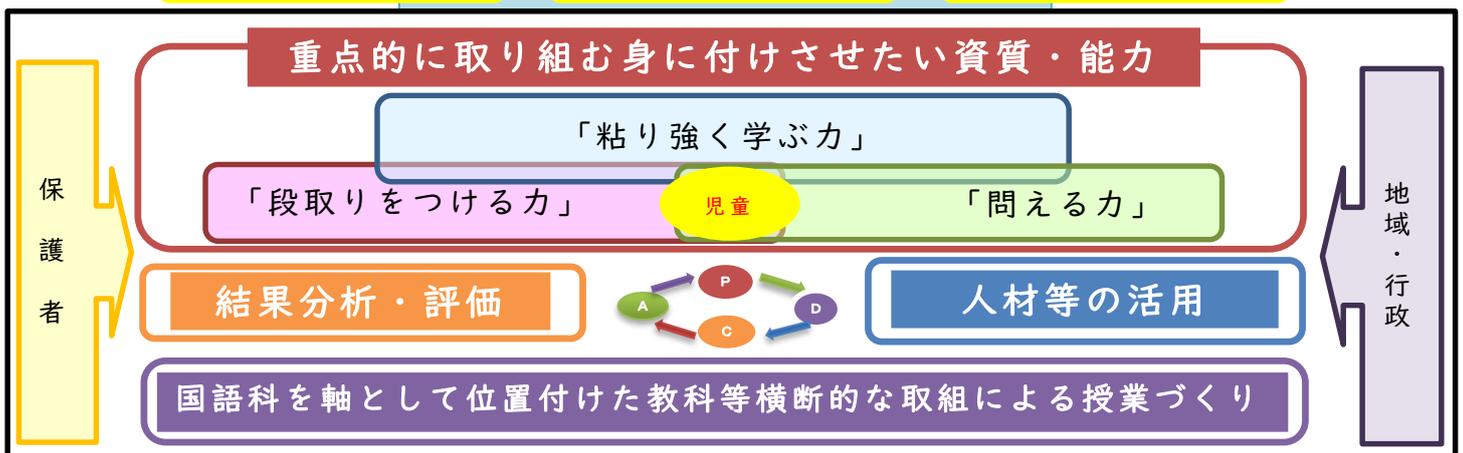
学校教育目標

夢を持って主体的に学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成

めざす学校像

めざす児童像

めざす教師像



4 研究の実際

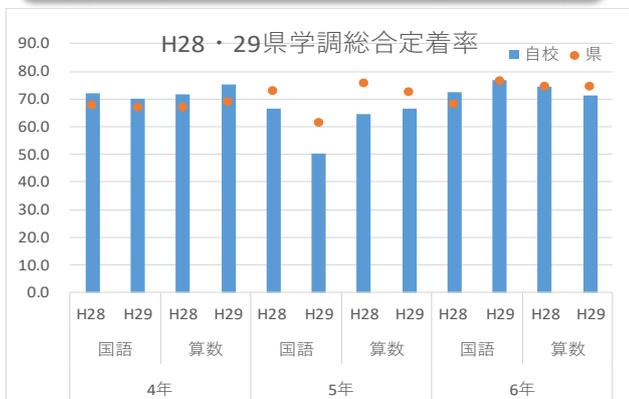
研究の手順と循環 ～1年目～

① 基礎研究

カリキュラム・マネジメントについて、新学習指導要領を基に全教職員で理論研究を行うことから始めた。

課題分析の方策については、県義務教育課指導主事からのご教示内容を参考に、各学年ごとに分担作業を行いながら分析し、課題と方策を共通理解し実践につなげた。

② 課題分析・実態把握



H28年度の結果分析をもとにH29年度の取組を行ったところ、算数に関しては前年度と比較して伸びが見られたが、国語、算数ともに県平均には及ばなかった。課題分析の方法をさらに工夫して取り組むことが必要だと考えた。

③ 身に付けさせたい資質・能力の設定

国語科を軸とした教科等横断的な学習により、「学習の基盤となる資質・能力」の一つである言語能力を構成する資質・能力の育成を目指す。

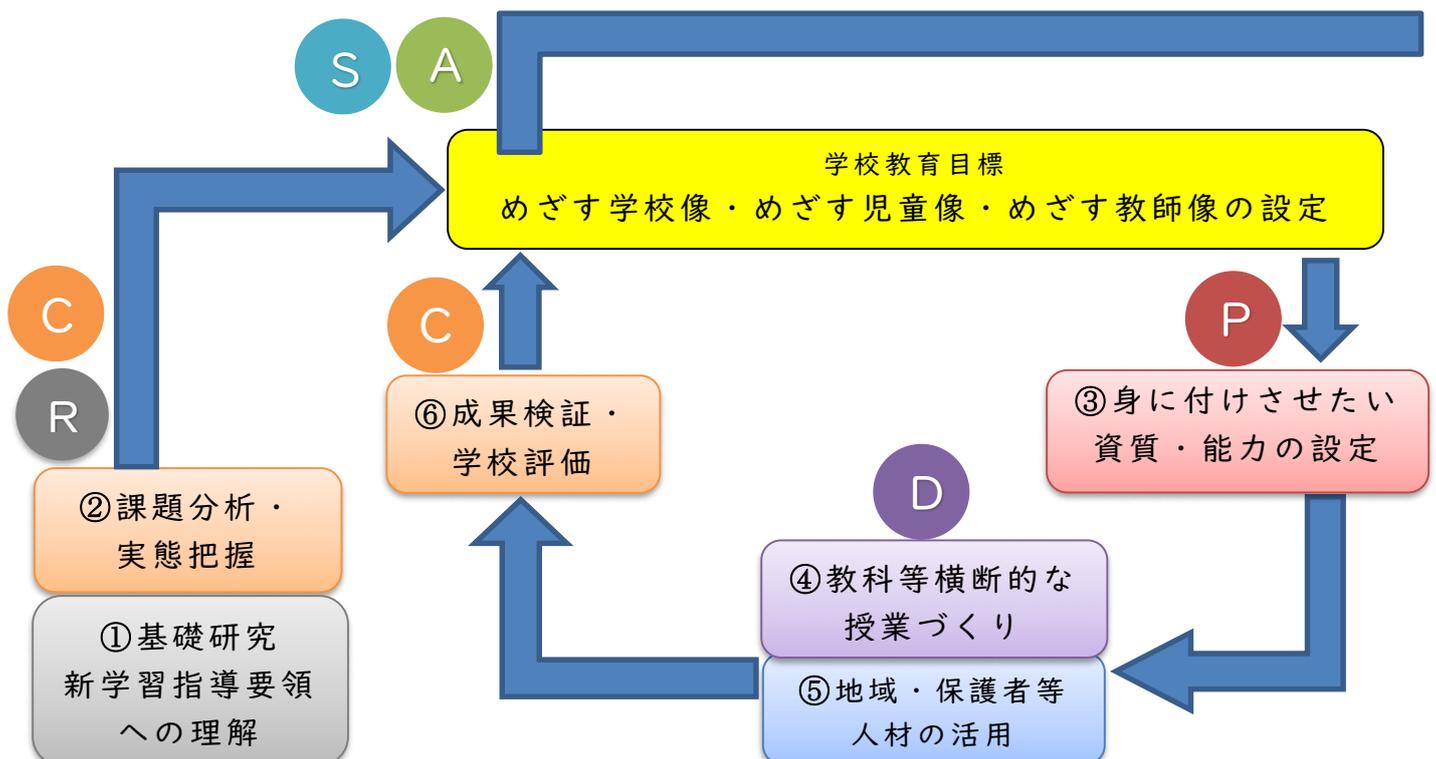
	低学年	中学年	高学年
(1)知識及び技能	読み書きの基本的な力 語彙力	新たな知識へ適応する力 語彙力	学習内容に適應する力 語彙力
(2)思考力・判断力・表現力等	話す聞く力 想像する力	既習知識を活用する力 読み取る力	話す聞く力 考えを形成し深める力
(3)学びに向かう力・人間性等	自力解決しようとする力	自力解決する力	自ら学ぼうとする力 読書する力

②の状況等から、すべての学習の基幹である国語科を軸としての研究を行うこととし、低中高の各学年で身に付けさせたい資質・能力について全教職員で検討した。

⑥ 成果検証・学校評価

H30年度末に、児童、職員、家庭にアンケート調査を実施し、翌年度のめざす学校像・めざす児童像・めざす教師像の設定の参考とした。

学習者である児童へ、定期的に学びのアンケートを実施し、その変容を調査し指導に活かした。(p. 8)



教科等横断的な授業づくり

1 他教科との横断的な学習による充実した授業

授業実践を進めるにあたって、国語科と他の教科等が身に付けさせたい資質・能力でどのように関連するのかを明確にするために、以下の視点に基づき、「国語科を軸とした教科等横断的な学習年間計画」を作成した。（合科を行うなど各教科本来の学習指導内容を変更するものではない）

- ① 熊本県学力調査の結果を基に国語科で身に付けさせたい資質・能力を考え、国語科のどの単元で身に付けることができるのか、また学習した内容や経験が、他の教科等の学習にどのようにつながるのか関連を図る。
- ② 他教科・領域と横断させることで身に付けさせたい資質・能力が付いていくよう関連を図る。

国語科を軸とした教科等横断的な学習年間計画（6年）

月	教科	単元名【題材】	月	教科等	単元名	◎身に付けさせたい資質・能力 ○横断的な学習の効果	行事との関連
7月	国語	町の良さを伝える、パンフレットを作ろう。 【ようこそ私たちの町へ】	5～7月	総合的な学習の時間	水俣の偉人について調べ、発信しよう	◎目的や意図に応じて、各事柄を収集し、集めた情報を整理して、新聞にまとめる力。 「<段取りをつける力>」 ○国語のパンフレット作成で身に付けた、「必要な情報を整理する力」を意識させることで、新聞作成までの作業時間短縮と情報整理の方法を繰り返し学習できる。	一小まつり
			6月	体育	ソフトバレーボール <ボール運動：ネット型>	◎本時の目的に応じて、技の情報を整理し、チームの練習計画を立てる力。 「<段取りをつける力>」 ○情報を整理する活動を通して、課題に対して解決する方法を考える力をつけることができる。	

2 「身に付けさせたい資質・能力」の児童と教師間での意識の付け方

授業を実践する際には、本校で設定した3つの「身に付けさせたい資質・能力」から重点的に取り組む項目について、子供たちにも意識できるようキャラクターを作成し、授業で用いるようにした。そうすることで教師間でも、共通した取り組みを実践する意識付けにもなった。

～「一小の学び」で重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力～

知識・技能	身に付けさせたい具体的な力
粘り強く学ぶ力 	基礎的・基本的な力
 段取りをつける力	語彙力
問える力 	情報（テキスト）の理解と活用能力
思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力	伝え合う力
	自ら学ぼうとする力



学習計画を立てたり、学んだことを習熟したりする時間のときは授業の始めに子供たちに伝え、キャラクターを貼る。



学んだ後、子供たちにどの力だったか確認した方がいいときは、授業の最後にキャラクターを貼る。

1・2年生がめざす3つの力

「粘り強く学ぶ力」
あきらめなくて、さいごまでがんばる子ども

「段取りをつける力」
じぶんのことはじぶんで行い、ともだちと力をあわせて学べる子ども

「問える力」
「どうして・どうしよう」を考える子ども

低・中・高学年部ごとに設定した「めざす3つの力」

集会を通して全児童と共有



「めざす3つの力」やキャラクターについて説明を行い、全児童と共有を図った。

3・4年生がめざす3つの力

「粘り強く学ぶ力」
苦手なことも、最後までやりとげる子ども

「段取りをつける力」
ゴールが何かを考えながら友達と協力して取り組む子ども

「問える力」
学んだことを生かして、分からないことを調べようとする子ども

5・6年生がめざす3つの力

「粘り強く学ぶ力」
目標に向かって、できるまで挑戦する子ども

「段取りをつける力」
課題解決のために、計画を立て、見通しを持ちながら取り組む子ども

「問える力」
学んだことを生かして、さらによりよいものを目指す子ども

粘り強く学ぶ力

段取りをつける力



問える力

「めざす3つの力」についてのアンケート結果

児童に身に付けさせたい「めざす3つの力」について、どのくらい意識して学習に臨んでいるか、児童にアンケートを行った。4点満点で評価したものの平均点を示す。(R1年12月実施)

【1・2年生】

あきらめなくて、さいごまでがんばろうとしていますか。	3.6点
じぶんでできることは、じぶんでしていますか。	3.5点
ともだちと力をあわせてべんきょうしていますか。	3.4点
どうして?どうしよう?とかんがえていますか。	3.6点

【3・4年生】

苦手なことも最後までやりとげようとしていますか。	3.4点
ゴールが何かを考えて学んでいますか。	3.3点
友達と協力して学習に取り組んでいますか。	3.5点
学んだことを生かしたり、分からないことは調べたりしようとしていますか。	3.4点

【5・6年生】

目標に向かって、できるまで挑戦しようとしていますか。	3.4点
課題解決のために計画を立てて学習していますか。	3.1点
見通しを持って学習に取り組んでいますか。	3.2点
学んだことを生かして学習していますか。	3.5点
さらによりよいものを目指そうとしていますか。	3.4点

児童会スローガン

夢に向かって
チャレンジする
明るく元気な一小

【児童会活動】

学校目標との関連を考え、代表委員会で話し合いを行った。

学習委員会を中心にした取組

【学習のやくそくふりかえりカード】

毎月第3週に1週間チェックをする。聞き方、話し方、書き方など意識して取り組めるようになった。

学習委員会 学習のやくそくチェック

学習のやくそく	月	次	水	木	金	合計
目標を達成する。						
課題を最後までやりとげる。						
友達と協力して学習に取り組む。						
分からないことは調べる。						
計画を立てて学習する。						
見通しを持って学習する。						
学んだことを生かして学習する。						
さらによりよいものを目指す。						

【ことば名人の取組】

各クラスで学年に応じた言葉に関する問題のプリントに取り組み学習委員会で丸付けをした後、合格したら「ことば名人チャレンジカード」にシールを貼る。進級式にすることで意欲的に取り組む姿が見られた。



【学校運営協議会】

学校運営協議会では、学校の研究に関する取組の紹介をしたり、eライブラリ、読み聞かせボランティア「おはなしレンジャー」の取組について感想やご意見をいただいたりしている。協議会で育成をめざす資質・能力を話題にすることで、活用できる仕組みを紹介していただくことができる。また、ご意見をもとに行事について、また本校のカリキュラム・マネジメントの取組について、地域の回覧に掲載されるようになった。「めざす3つの力」を地域・保護者と共有する機会となっている。



【学校だよりの記事から】

学校教育目標 夢を持って主体的に学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成

めざす児童像

- 夢や目標を持ち、その実現に向けて努力する子供
- 思いやりと協働の姿勢を持って命を大切に生きる子供
- 人との関わりを大切に、喜んで頼られる子供
- 探究心にあふれ、主体的に学習する子供
- 元気に遊び、進んで学ぶ子供

～子供たちの更なる成長を願って～ 本保第一小学校長 吉井 秀男

本年度、13名の新たな職員と82名の新入生を迎えてスタートして、1学期も半ばとなりました。先月の「梅」になった本年度、本校も新たな発展に向け、様々な教育活動を推進してまいります。

さて、本年度は、昨年度から推進している「粘り強く学ぶ力」研究指定校として指定を受け、学校の総合的な教育力を高める研究に取り組んでいます。本年度は、この指定校としての取組を本保第一小学校が更に発展する発展の柱にすえて推進活動を展開してまいります。

なお、学校の重点の一つは、子供たちに身に付けさせたい「めざす3つの力」です。学校、子供たち、家庭、地域、行政という五者間でつなげた「共有」は、学習指導要領が重視し、求められているものでもあります。このことを念頭に置いて、今年度の学校だよりでは、授業実践などで、子どもたちに身に付けさせたい「粘り強く学ぶ力」と、授業実践に学校評価でつなげた期待される「めざす児童像」「めざす教師像」「めざす学校像」の結果をご紹介します。

授業実践に促された校長の願い

- 夢を大切にすること
- みんなが夢を持って
- 話をし合おうとすることが
- みんなが仲良く、みんなが元気で、みんなが元気で
- しっかとやること

学校評価の結果について

めざす児童像(児童、保護者、教職員が質問の対象) 前(1)内の回答の多い順です。

- 思いやりと協働の姿勢を持って命を大切に生きる子供(1)保護者(1)教職員(1)
- 人との関わりを大切に、喜んで頼られる子供(1)保護者(1)教職員(1)
- 探究心にあふれ、主体的に学習する子供(1)保護者(1)教職員(1)
- 元気に遊び、進んで学ぶ子供(1)保護者(1)教職員(1)

めざす学校像(保護者、教職員が質問の対象)

- 子供が元気に遊び、進んで学ぶ学校(1)保護者(1)教職員(1)
- 一人一人が大切に、思いやりと協働の姿勢を持って命を大切に生きる学校(1)保護者(1)教職員(1)

めざす教師像(保護者、教職員が質問の対象)

- めざす児童像(児童、保護者、教職員が質問の対象) 前(1)内の回答の多い順です。
- 思いやりと協働の姿勢を持って命を大切に生きる子供(1)保護者(1)教職員(1)
- 人との関わりを大切に、喜んで頼られる子供(1)保護者(1)教職員(1)
- 探究心にあふれ、主体的に学習する子供(1)保護者(1)教職員(1)
- 元気に遊び、進んで学ぶ子供(1)保護者(1)教職員(1)

めざす学校像(保護者、教職員が質問の対象)

- 子供が元気に遊び、進んで学ぶ学校(1)保護者(1)教職員(1)
- 一人一人が大切に、思いやりと協働の姿勢を持って命を大切に生きる学校(1)保護者(1)教職員(1)

今年度の結果で明らかになったことは、「めざす児童像」「めざす学校像」「めざす教師像」について、教職員、児童、保護者間の目指す方向がほぼ揃ったことでした。このことは学校にとって大きな励みであり、後押しとなるものを受け止めています。学校では、このことを本校の「強み」として、教育活動の更なる発展に取り組んでまいります。

それぞれの立場で「めざす3つ」を意識した取組がなれ、子どもたちの成長する活力ある学校づくりに一層努めたいと思っています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

めざす児童像・教師像・学校像や子供たちに身に付けさせたい資質・能力等について「学校だより」を通して、地域と共有を図った。

【主に「粘り強く学ぶ力」を育む取組】

学習支援ボランティア

週に1回、放課後30分間程度、1、2年生の音読を学習支援ボランティアに聞いてもらっている。合格したら、シールを貼って、励ましや賞賛の言葉かけをしよう。

普段の学習とは違う緊張感ある環境で練習をすることで、基礎・基本の力を身に付ける学習が継続できている。

・ 行政との取組

【主に「段取りをつける力」を育む取組】

6年 総合的な学習の時間

「水俣の偉人について調べ、発信しよう」

本校の校歌は水俣の偉人「徳富蘇峰」の作詞である。「徳富蘇峰さん」について本で調べ、その資料を取捨選択し、新聞形式にまとめることで資料活用能力を育てていった。鼓笛隊の練習でお世話になった一期崎祥子さんと齊所敬三さんに水俣の偉人について講話をしていただいた。水俣にはいろいろな分野で活躍する人がたくさんいることを学ぶことができた。



3年 社会科 「農家の仕事」

「寄ろ会水俣」の下田国義さんにサラダ玉ねぎ作りを通して農家の仕事について話をいただいた。児童は話の中から自分がさらに調べたいことを見付け、質問したいことを考えた。後日また下田さんに来ていただき、インタビュー形式で質問をし、自分が調べたいと思ったこと



とについて詳しいことを教えていただき、学習を深めることができた。



【主に「問える力」を育む取組】

4年 水俣病学習

「ほっとはうすの方との交流」

毎年交流を続けており、水俣病学習と、自分たちの生活のつながりについて、自分事として問い直す機会を積み上げてきている。水俣病に



ついて、道徳や学活で学習した際に出た疑問等について実際に患者さんと触れ合い、学習を深めている。

1学年 生活科 「たのしもうあき」

秋探して見つけた落ち葉やどんぐりなどを使っておもちゃを作り、そのおもちゃで園児さんたちと一緒に遊ぶという交流をした。どうしたら園児さんたちに喜んでもらえるかを考えて、遊び方を工夫したり、遊びの説明のしかたを考えたりすることができた。



全学年 行事 「一小まつり」

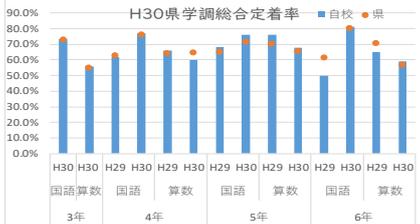
育友会（PTA）が主となって地域の方々に職業体験の講師をお願いし、毎年2学期に来ていただいている。今年度は消防士、警察官、自衛官、植木職人、畳屋、化学工場、電気設備、保育士、農業（お茶）、鍛冶屋、ネイリスト、介護士、草木染、内装仕上げ工事、旅館接客業、竹細工、マッサージ指圧師の17種類の職業の方に来ていただいた。

児童は、事前に自分が体験する職業について調べ、どんなことをする職業なのか知った上で実際に体験した。体験の中で、新たに知ることも多く、「どうしてこうなるの」「この職業に就くにはどういう勉強をすればいいの」という疑問を持ったり、実際に家庭で実践してみたりしていた。児童は職業体験を積み重ねることで「仕事」について考え、学び、将来へ生かそうと夢を膨らませることができた。



研究の手順と循環 ～ 2年目～

⑦ 課題分析・実態把握



H30年度県学調の総合的な定着率を基に課題のある領域を見付けたり、問題分析を通して、課題改善のために必要な取組の検討を学年ごとに行ったりした。また、意識調査を基に児童の学びに向かう姿勢を分析し、日常的に必要な取組を洗い出した。更に、これらの分析を基にこれまでの取組の評価を行い、R1年度の取組について検討を行った。

⑧ 重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力の設定

「重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力」の設定までの手順

- ① 県学調・標準学力検査の結果分析、全学調後の自主採点等課題分析
- ② 各班に分かれて身に付けさせたい資質・能力についての検討
- ③ 各班ごとに、低・中・高学年で主に身に付けさせたい力の設定
- ④ 資質・能力3つの柱ごとに身に付けさせたい力を整理
- ⑤ 重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力を設定

重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力

「段取りをつける力」

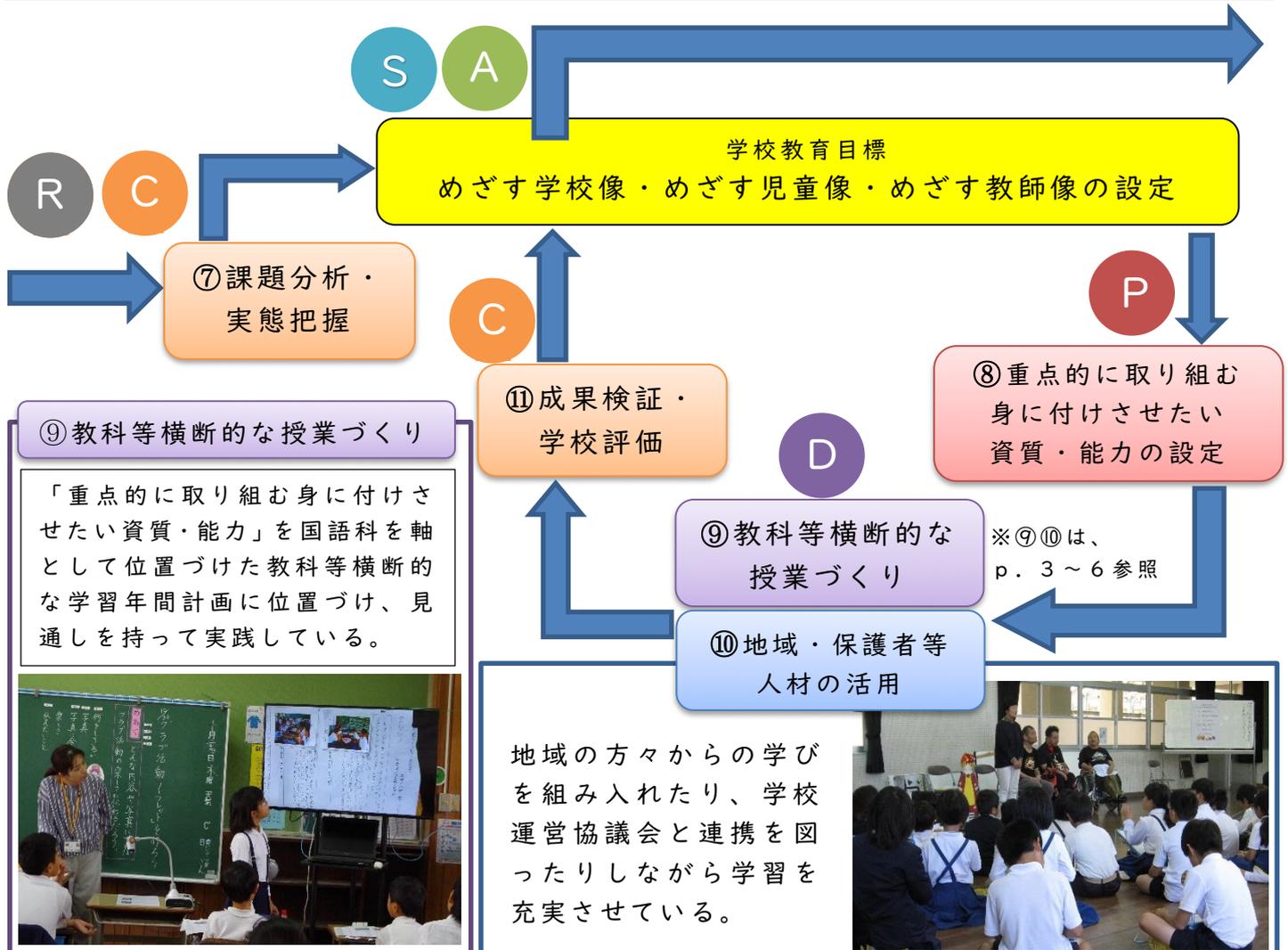
課題解決のために、自ら考え、計画的に調べ、判断し、伝え合って解決していく力

「粘り強く学ぶ力」

できないことができるようになるために、基礎的・基本的なことを粘り強く学び、身に付けていく力

「問える力」

学びや態度について更に向上するために、周囲とともに問い、自らに問う力



「重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力」を国語科を軸として位置づけた教科等横断的な学習年間計画に位置づけ、見通しを持って実践している。



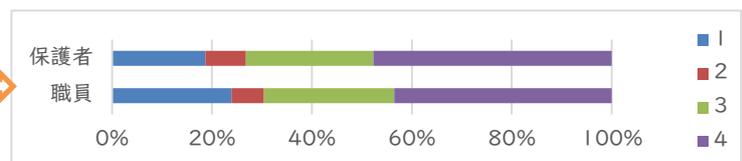
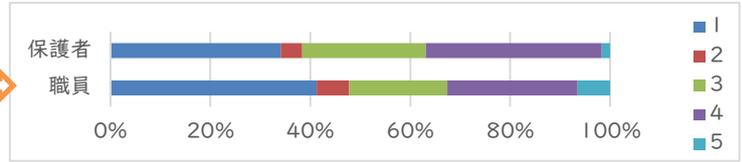
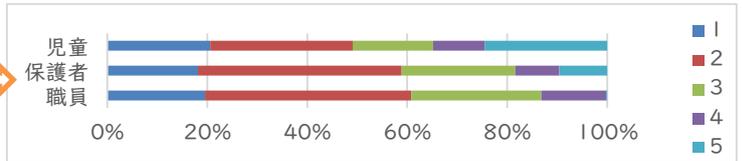
地域の方々からの学びを組み入れたり、学校運営協議会と連携を図ったりしながら学習を充実させている。



1. 学校評価アンケート (H31年3月実施)

児童・保護者・職員へのアンケートをもとに、めざす児童像・学校像・教師像について検討を行った。

めざす児童像	1 夢や目標を持ち、その実現に向けて努力する子ども 2 思いやりと感謝の気持ちを持って命を大切にする子ども 3 人との関わりを大切にし、進んで明るいあいさつ・返事をする子ども 4 探求心にあふれ、主体的に学習する子ども 5 元気に遊び、進んで体を動かす子ども
めざす学校像	1 子どもが喜んで登校し、楽しく学ぶ学校 2 明るいあいさつ響き合い、花いっぱい、環境が整備された学校 3 思いやりと信頼が満ち、活気に溢れ、常に前進する学校 4 一人一人を大切に、優しさの中にも厳しさのある学校 5 地域の願いに応え、地域とともにある学校
めざす教師像	1 使命感と情熱を持ち、子どもに力を付ける教師 2 研修に励み、豊かな教養と指導力のある教師 3 教育愛と誠実さを持ち、子ども・保護者・地域の課題に応える教師 4 一人一人を真剣に見つめ、子どもに寄り添い、限りない可能性を伸ばす教師

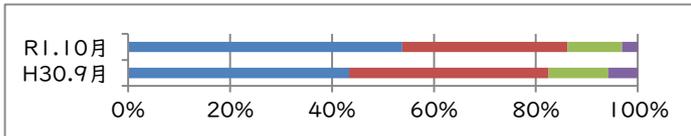


2. 学びのアンケート

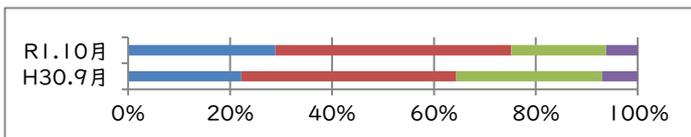
■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる
■ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない

めざす児童像に合わせて、アンケート調査を行い、児童の実態と研究の成果を検証している。

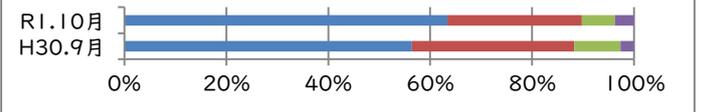
② 自分の考えが相手に伝わるように、話の組み立てを工夫することができる。



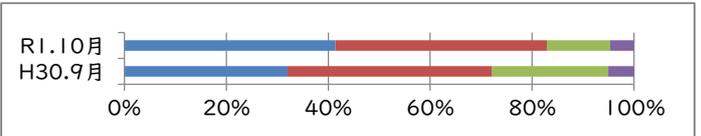
⑤ 最後まであきらめずに問題に取り組むことができる。



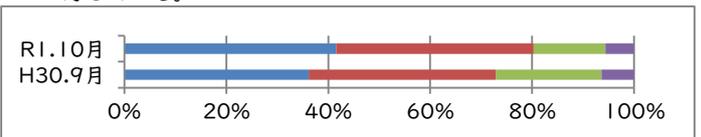
① 自分の意見や考えを友達に伝えることができる。



④ 友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。



⑦ 勉強で分からない時、先生や友達に聞いたり、調べたり、努力している。



5 成果 (○) と課題 (●)

○2年間の研究における実践を通して、本校の課題解決に向けた全職員で取り組む組織体制の在り方と身に付けさせたい資質・能力の設定方法が確立できた。

○身に付けさせたい資質・能力を付けるための学習計画の進め方や教科等横断的な授業づくりの方法について共通理解・共通実践できた。

○キャラクターの設定を行うことで、身に付けさせたい資質・能力を児童と共有、意識化が図られ、授業づくりにも役立てることができた。

○保護者・地域・行政との取組では、従来までの協力体制に加え、児童へ付けたい力を意識した取組を行うことができた。

●身に付けさせたい資質・能力が児童に定着したかどうかの客観的指標の再検討が必要である。

●次年度に向けた取組と新年度からの取組のつなげ方について、検討していく必要がある。

●課題の共有化・共通理解や全職員による課題分析のための時間の確保が必要である。